

台本2

※収録の際、セリフのみを収録してください。キャラクターの名前情報などの必要はありません。

※本番で使用するセリフはサブキャラクター、擬音セリフになります。メインキャラクターは審査の参考として収録をお願いしています。

※一部のセリフのみの応募も可能です。

できるだけ多くのセリフを収録いただけると幸いです。一部のみの場合は台本からお好きなセリフをお選びいただき、メインキャラクター2つ以上、サブキャラクター4つ以上、擬音1つ以上を収録の上ご応募ください。

【主なキャラクター】

ムクミ…タクミの姉。人気の同人作家で猫井家の家計を支えている。気配を消して背後に忍び寄ると言う謎スキルを持っている。

父…タクミの父。おカネがあればニヤチンコにつき込んでしまうダメ猫。ずっと無職だったが、謎のメールがきっかけでブラック企業《猫企画》に就職することに。

筋肉猫…猫企画で働くパートタイマー。

社員…猫企画の社員たち。社長の言うことは絶対。

市民たち…ニヤゴヤシティに住む猫たち。

【メインキャラクターパート】※太文字が収録セリフになります

ムクミの部屋。独り言を言いながらマンガを描く。

ムクミ「ニユフフフ……エエわぁ。あ、まって、むり、しんどい。どちゃくそ尊いわぁ……」

父の帰りが遅いことに心配するタクミ。

ムクミ「ニヤにかイヤニヤ予感がするわ」

タクミ「予感？」

ムクミ「事件に巻き込まれとるんでニヤいか……ってささやくんだわ、私のゴーストが……」

ガラケーの画面を見て興奮する父に対し、冷めた反応の二人。

父「わからんのか、お前(ま)ゃぁ[mæ-]ら。とつとつ父(ちち)さんは才(さい)ゃぁ[sæ-]能(のう)を認められた(ら)がやー!」

タクミ・ユガミ「才能(のう)って?」

父「今はまだ眠(ね)とる《可能性(かのうせい)の獣(けもの)》、《我(われ)々の内(うち)に存在(そんざい)ざ(ざ)ゃ(あ)するネコ》、あるいは《分(ぶん)かりあえる力(ちから)》と呼(よ)んでもええ……」

ユガミ「ニヤン DEATH(デス)それ?」

【サブキャラクターパート】

父、奴隷服を脱ごうともがいているとドアが開き、筋肉猫が姿をあらわす。

筋肉猫△「目エ醒めたか。ニヤら、ついでこやあ」

筋肉猫、父を引きずっていく。奴隷服を脱ごうとしてジタバタする父に対して

筋肉猫△「あきらめやあ。その服はお(ま)ゃあ[mæ-]と遺伝子レベルで融合しとる。絶対(ぜ)ったゃあ(脱)げん」

ボンヤリ立っている父の前にスコップが投げ出される。ボンヤリ立っている父の前にスコップが投げ出される。

筋肉猫△「掘れ」

父「ネコランド、ってニヤンだ？」

筋肉猫△「ワシらもよお知らん。ただのパートタイマーだでニヤ」

父「ワシらにそれ作れ、だと？」

筋肉猫△「そうじゃニヤい。お前(ま)ゃあ(ら)ーは、この地面の下に眠とる————《あるもん》を掘り出すことが仕事だがや」

父の「あるもん？」

筋肉猫△「超古代(こ)だ(ゃ)あ(の)オーパーツだがや」

父「ニヤンだそりゃ？」

筋肉猫△「掘ってみやわかる」

奴隷猫42号が壁にしがみつき、よじ登り逃げ出す

筋肉猫△「たーけ」

筋肉猫がボタンを押すと、奴隷猫42号が破裂。破裂した奴隷猫42号を見ながら青ざめた父に対して

筋肉猫△「わかったか」

父「へい。よおーわかったわ」

筋肉猫△「ああニヤると掃除がえら(ら)ゃあ[ɔə-]からワシらの仕事が増えんように頼むでよ」

巨大怪獣を見て逃げ出す筋肉猫や奴隷たち

筋肉猫△「ニヤ、ニヤンだ、ありゃー？」

【擬音パート】

巨大怪獣が現れ、逃げる市民たち。口々に叫び声や悲鳴を上げる。
市民たち「わー！ きゃー！ にゃー！」

タクミの姿を見て、

社長「それ、何のコスプレ？」

社員たち「ニヤハハハ！」

空気を読んで笑う社員たち

お互い顔面を殴り合う社員たち。サングラスが砕け散る。

社員3・4「ばぶっ！！」

タクミのキックが社員の顔面に当たる。

社員5「スローでニヤああああ」